

実施主体、事業名などの概要

- ・事業名：『海と山が会おうまち』はんなん森里川海プロジェクト
- ・実施主体：阪南市
- ・対象地域：大阪府阪南市
- ・対象とする良好な環境：自然共生サイトである『阪南セブンの海の森』

地域の現状・課題

- 大阪都心圏にありながら府内唯一の半自然海岸など良好な環境が残り、市内小学生向けの海洋教育コンテンツも進んでいる。体験型コンテンツや特産品など、観光資源の芽はあるが、観光振興や受入体制は未整備である。

目指すべき姿（中長期ビジョン）

- 観光・経済・環境の循環型ビジョン
「環境を活用した観光振興と経済循環の仕組みづくり」
- 市民参加・世代継承型ビジョン
「市民と次世代が担う持続可能な環境保全コミュニティ」

実施項目（事業内での取組）

- 共通ストーリーの整理・言語化
- 海を主軸としたモニターツアーの実施・検証
- 山に関する成立条件の整理・検証
- 評価指標の設定と見える化

R7：資源を知る

R8：条件整理・検証

R9：実施・自走開始

（事業期間終了後）

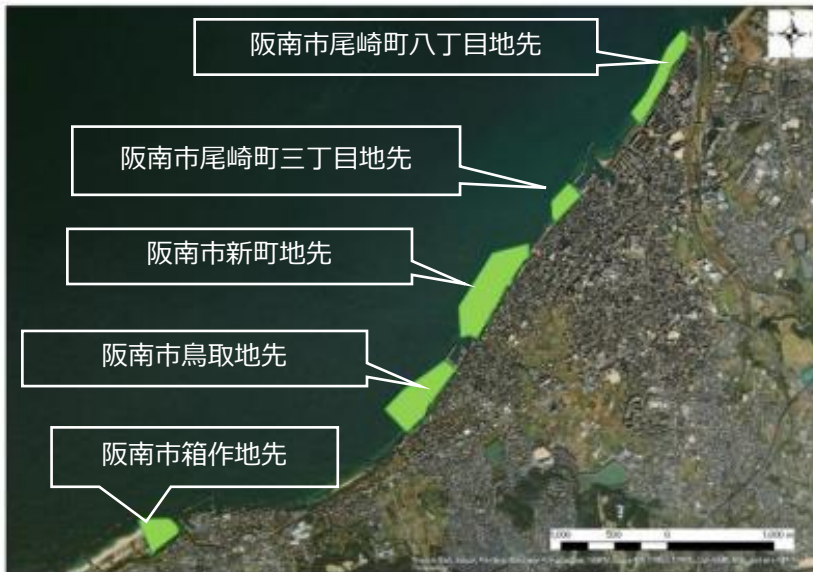
実施項目（事業内での取組）

- 海の現状把握、保全と活用施策
- 山の現状把握と課題整理
- 海と山が会おうまちの方向性立案
- コンテンツの磨き上げ・課題整理

実施項目（自走化）

- 民間主導運営による事業自走化（運営体制・収支モデルの確立）
- 海を核とした環境配慮型ツアーの実装（受入体制整備・コンテンツ磨き上げ含む）

対象となる良好な環境の概要



自然共生サイト『阪南セブンの海の森』

住所：阪南市尾崎町8丁目及び3丁目、鳥取、新町並びに箱作地先

面積：40.17ha

概要：阪南市はセブンイレブン記念財団と2018年～2028年の10年間の協定を結び、沿岸域にアマモの保全活動を行う「阪南セブンの海の森」プロジェクトに取り組んでいる。地域や民間との連携により「CO2削減」と「豊かな自然環境の再生」を進める「海の森」づくりとして、環境を始め、観光・産業、教育、暮らし、健康、スポーツなどの様々な分野の融合を行うことで、魅力の創出と地域の活性化を図るとともに、交流人口や関係人口の増加に繋げる。



R7年度の調査・実践を通して整理したストーリー案

□都会のすぐそばで「海と森がつなぐ小さな奇跡」を体感できる

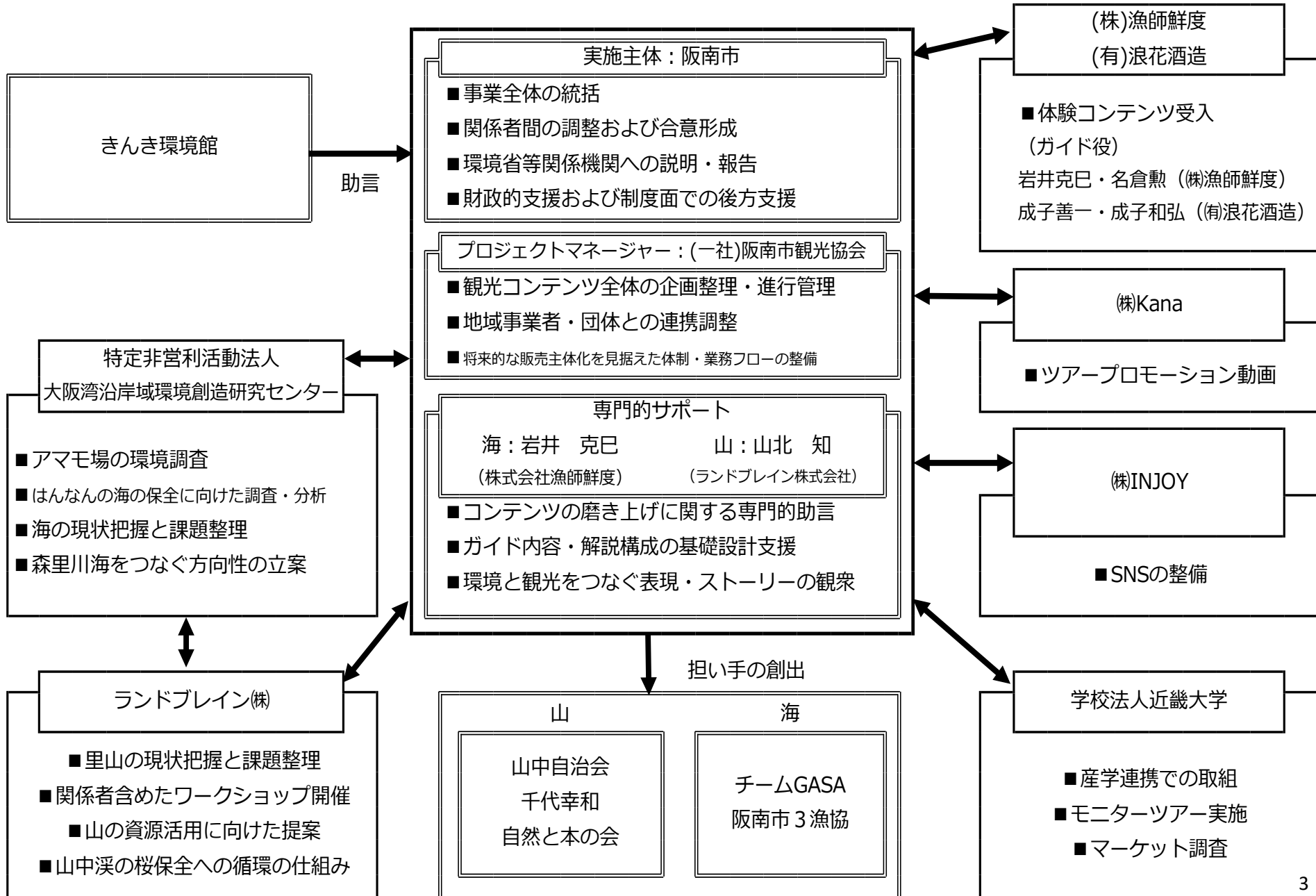
アマモ場が広がる大阪府最大級の自然海岸と、伏流水を生む里山が残り、海と山がつながる希少な環境が育まれています。すだて遊びや牡蠣養殖、酒蔵体験などを通じて、訪れた人は海と山の恵みの循環を実感できます。地元の人々が守り続け

てきた自然に触れ、清掃などの保全活動に

参加することもでき、観光が環境を支える仕組みを体験できます。阪南市では、大阪都市圏という大都市近郊の中で、海と山を知る・遊ぶ・学ぶ・味わう体験が一つの物語となり、自然と人の関係を見つめ直すきっかけを得られる点が大きな魅力です。



実施体制（図示）



【R7年度取組】

海の現状把握 保全と活用施策

- 海のコンテンツ（すだて遊び、カキ養殖等）の観光資源の可能性の検証
- 自然共生サイト「阪南セブンの海の森」の現状を把握するための沿岸域調査

山の現状把握と 課題整理

- 山の管理や活用等を行っている関係者へのヒアリング調査（学生との協働）
- 関係者を集めた勉強会やワークショップの実施

海と山が会えるまちの 方向性立案

- 阪南市内における環境資源・観光コンテンツのうち、ツアー造成可能なものをスコアリングし上位2つ（西鳥取漁港・浪花酒造）コンテンツ最優先実施ツアーとする

コンテンツの磨き上げ・ 課題整理

- その他資源の課題整理
- コンテンツの磨き上げ
- ツアープロモーション動画
- 大学生と協働し幅広い世代の観光客を呼び込む

特に工夫した点・取組成果

- 担い手である岩井氏より、すだて遊び、カキ養殖を観光コンテンツにすることで、海的环境保全や次世代への還元にもなると協力を快諾。海の現状把握・調査を行い、アマモの種付けなどの環境体験型コンテンツ導入も検討対象にする

特に工夫した点・取組成果

- 関係者へのヒアリングを実施
- 関係者と学生を引合わせ実施
- 現状調査と課題整理（11月）
- 関係者との勉強会（11/13）
- 関係者とのWS（12/11）
- 山の環境を活用した観光の方向性立案（12月）
山の担い手の輪も少しずつ広がりを見せており、R8はR9に試行できるコンテンツを見出す

特に工夫した点・取組成果

- プロジェクトメンバーで「魅力がある資源」を選定し、スコアリング。ガイドに関する課題も解消し、R8年度にツアー提供開始する。
- 海と山が会えるまちの方向性立案（12月）環境に精通した岩井克巳氏を中心とした取組

特に工夫した点・取組成果

- コンテンツ磨き上げでは既存資源（浪花酒造）を森里川海ストーリーの中で再整理し、商品化に向けた成立条件を明確にすることができた。
- モニターツアーでは海外ランドオペレーターや留学生を対象に体験に加え環境ストーリー説明を組み込んだツアーを実施。回答では満足度の高い回答を頂くことができた。

R7年度のゴール

- 関係者と連携し、市内の良好な環境資源の現状を把握するとともに、観光活用に向けたプログラム候補を選定し、令和8年に目指す「保全へ還元する循環型モデルの構築」に向けた基盤を整理する。

課題

- 地元自治会、NPO、漁業関係者、観光事業者などとの協力体制の仕組みが十分でなく、プログラム実施や保全還元の計画に影響を与える可能性がある。また、宿泊施設が少ないことから、日帰り、短時間で楽しめる観光プログラムの造成が必要であることから、令和8年度以降は、観光協会を中心とした各種団体との連携体制を整備し、短時間型プログラムの具体化を進める。

「阪南セブンの海の森」大阪都市圏(大阪湾)に残された数少ない自然系海岸と藻場

アマモ場の広がる生物多様性を持つ豊かな海
多様な主体による保全・再生活動



アマモ場の再生活動に関しては、行政・NPO・学校・企業・漁協・市民が協働し、下記の年間スケジュールに沿って取り組んでいます。

- 4～6月: アマモ場の面積・株数調査、育てた苗の移植
- 6月: 花枝(種付き)採取
- 10～11月: 種まき(播種)、苗床づくり

豊かな海を利用した漁業・水産業・アクティビティ



良好な環境の保全・再生
環境を活かした持続可能なまちづくりに向けて

岩井克巳

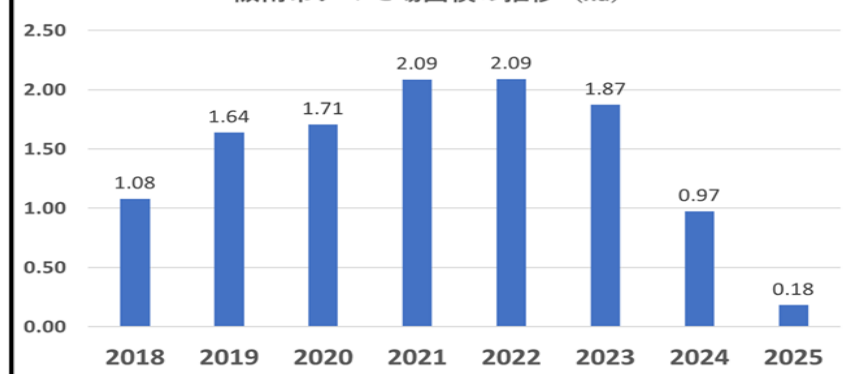
技術士(建設部門)/潜水士/水産工学技士

NPO法人海づくり研究会監事/NPO法人大阪湾沿岸環境創造研究センター専務理事/株・漁師鮮度代表取締役/株IMA&S代表取締役/日本ミクニヤホールディングス(株)取締役/大阪湾見守りネット理事/チームカガサ

- ・阪南市を中心に、アマモ場再生を核とした海洋教育、カキ小屋を核とした浜の活力再生を指導・実践。
- ・横浜を拠点とした全国の海の再生活動団体の実践・支援



阪南市アマモ場面積の推移 (ha)



異常気象、台風等による海的环境変化
→アマモ場の減少・生物多様性の減少

阪南市HPより

ブルーエコノミー(Blue Economy) 環境と経済の好循環
～海を守りながら、経済や社会全体をサステナブルに発展させる～

環境教育・研修機能の充実・強化、次世代への継承

阪南の海・大阪湾の保全・再生活動、情報発信

生物多様性の保全・向上、生態系保持

多様な主体との連携・協働によるSDGs推進、社会貢献の場の提供

持続可能な漁業・水産業振興

地域資源を活かした新規事業展開

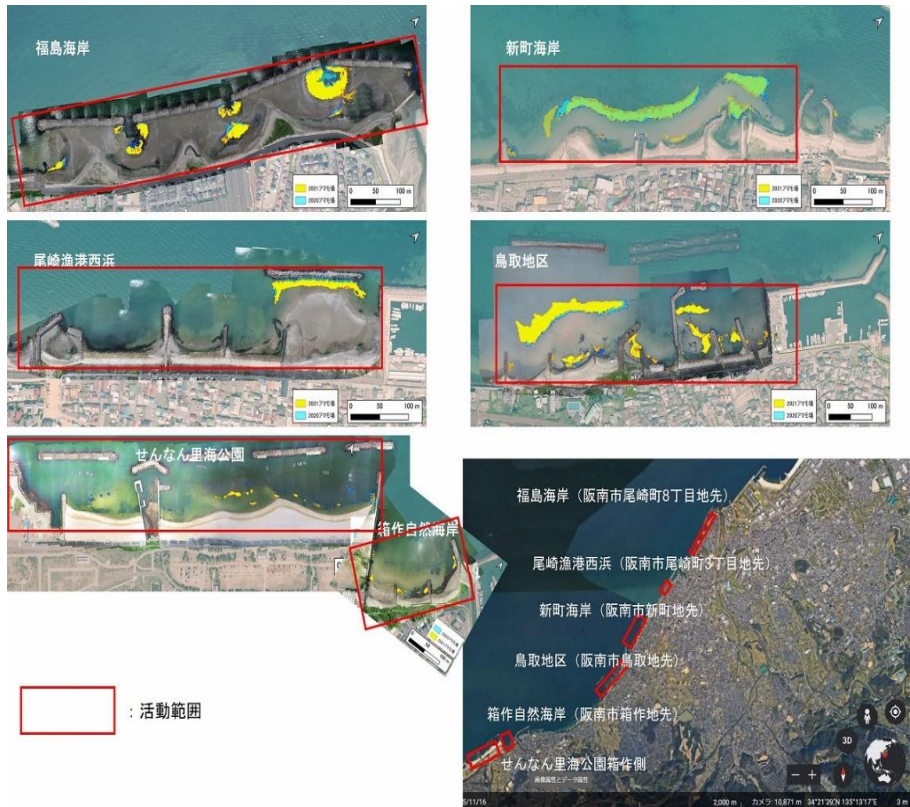
ブルーカーボンクレジットの創出

海の現状把握保全と活用施策

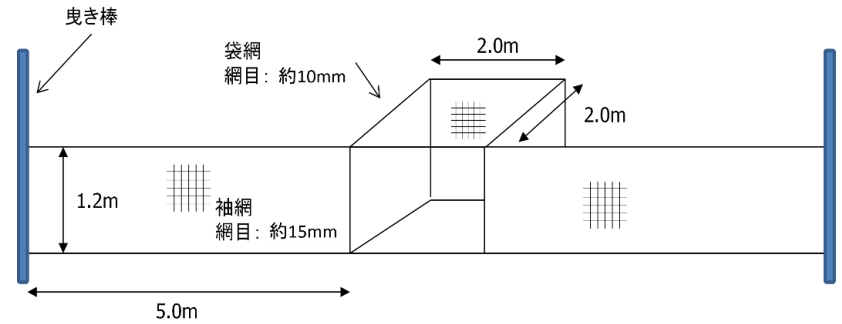
阪南市では、市内全小学校で海洋教育を推進しており、アマモ場の保全・再生による生物多様性維持・拡大の重要性について体験学習を通じて子供たちに学んでもらっている。また、ブルーカーボン生態系の保全について、阪南市では「自治体SDGsモデル事業」として様々な主体と連携して推進している。

本活動は、教育実習の一環として、阪南市内の小中学生総数で約2000人、府民や他地域の一般市民総数で約400人を対象としたアマモ場での生き物観察および磯場での生き物観察を実施した。

■実施場所



■調査用具について



<イメージ写真>



■調査結果

調査は5/16、6/14、6/15、6/25、6/27、7/10の6回実施



各地先のアマモ場及びその周辺において、動植物を採捕。採捕した動植物は、その場で観察・参加者への説明をした後に、種の同定および記録を行った。普段見る機会も少ない動植物などに触れ合う機会は付加価値も高く、参加者に強いインパクトを残す。

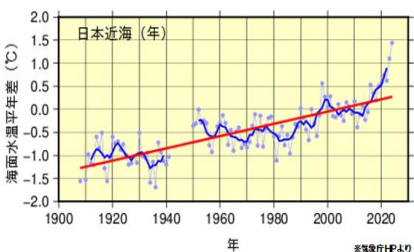
※海洋教育は当市の取組であり、本事業の取組ではない

海の現状把握保全と活用施策 良好な環境を活用した観光モデル事業（初年度）

海の現状と保全の取組（現状把握）

- 阪南市沿岸域は
 - ・ 森川里海が連続する地形
 - ・ 自然共生サイト（30by30）沿岸域認定第1号
- 海水温上昇等による生態系変化の進行や赤潮被害
- アマモ場の減少と漁場環境への影響
- 年間50～60トンが流入する大阪湾の海洋ごみ

海水温の30年間（1991～2020年）平均値との比較



課題整理と活用に向けた方向性

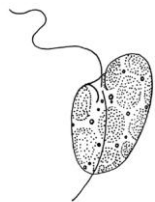
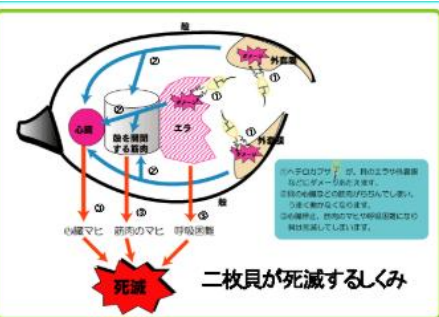
- 環境価値が観光・体験として十分に可視化されていない
- 保全活動と来訪者体験の接続設計が未成熟
- 担い手・関係人口は一定数あるが継続的関与の仕組み不足
- 「環境×観光×経済」を貫くストーリー未整理



阪南市は
森川里海が
一体で存在

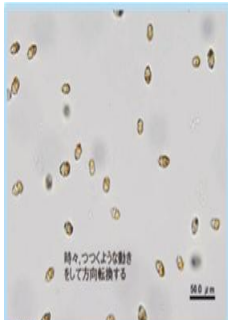


アマモ移植



ヘテロカプササーキュリスカマについて

学名	Heterocapsa circularisquama
ヘテロカプサ	サーキュリスカマ
分類	渦鞭毛植物門 渦鞭毛綱 ヘリディニウム目
漁業被害	タイラギ、アサリ



阪南市沿岸域は、アマモ場再生をはじめとする生物多様性保全の取組が進展している一方、その環境価値が観光分野において十分に活用・発信されていない状況にある。本事業の初年度においては、既存の保全活動を起点として、環境保全と観光利用を両立させるための課題整理および活用の方向性を検証する段階と位置付け、次年度以降の具体施策検討に向けた基礎的整理を行った。

モデル事業推進にあたり、ターゲットとするインバウンド市場

■本検討の位置づけ

・本事業におけるツアー造成に向け、インバウンド市場の観点からターゲット仮説を整理し検証（次年度以降の実証に繋げる）

■調査方法

既存統計・関係者ヒアリング・モニターツアーによる仮説検証

■主なデータソース

JNTO訪日外客統計・観光庁訪日外国人消費動向調査

■調査の基本的な考え方

- ・大量誘客ではなく、環境負荷を抑制した質の高い誘客を前提
- ・良好な環境の「活用」と「保全」の両立を重視
- ・自然・環境配慮への関心が高い市場を対象に仮説設定

■仮説的ターゲット市場

欧州市場（仮説的ターゲット）

【設定理由】

- ・自然体験・農村・地域文化への関心が高い
- ・少人数・長時間滞在型の旅行スタイル
- ・環境保全・サステナブルな取組への理解が高い

【欧州市場での重点想定】

国・地域	主な特徴	本事業との完成性
ドイツ	自然・環境教育志向	森・川の学びと親和性
フランス	文化・地域体験重視	里・人の営みの親和性
北欧	サステナブル志向	環境保全と活用・リサイクル

■インバウンド市場動向

【市場別の主な特徴（整理）】

市場	主な特徴
欧州	自然・文化志向、長期滞在、体験重視
東アジア	周遊・都市観光、短期滞在
北米	広域周遊、テーマ性重視

- ・大量誘客ではなく、環境負荷を抑制した質の高い誘客を前提
- ・良好な環境の「活用」と「保全」の両立を重視
- ・自然・環境配慮への関心が高い市場を対象に仮説設定

■阪南市の環境特性整理

【自然環境の構成】

自然環境	特徴	観光活用の拠点
海	里海としての漁業活動 アマモ場等の沿岸生態系	保全体験・海洋教育
川	山の豊富なミネラルを 海へと繋ぐ役割	山の恵み（伏流水）で作 る酒
里	農地・集落・人の営みが 残る生活空間	地域文化や暮らしを学ぶ 交流型観光
森	市の6割超のフィールド。 大半が広葉樹。 過去は温泉地で賑わう	森林資源や循環を学ぶ環 境配慮型アクティビティ

【阪南市と欧州の親和性マッピング】

観点	欧州旅行者の価値観	阪南市の特性
体験	学び・ストーリー	里海・里山の背景
行動	少人数受入	少数・日帰りでの受入
意識	環境配慮	保全活動の存在

【調査からの結論】

- ・大量誘客型は不適
- ・環境理解度の高い市場が親和的

すだて遊び・牡蠣養殖の観光活用に向けた初年度検証

■目的・位置づけ

阪南市の沿岸域における「すだて遊び」「牡蠣養殖」を、良好な自然環境を活用した観光資源として成立させる可能性について、環境保全との両立を前提に、観光利用上の課題および導入条件を整理・検証した。

すだて遊び



すだて遊びは、遠浅で干満差のある海という自然条件を活かし、海の干満や沿岸生態系の仕組みを体感できる漁業由来の自然体験である。自然環境そのものを体験をする点に特徴があり、「良好な環境」を可視化するネイチャーベースド・アドベンチャーツーリズムの素材として検証価値が高い。本事業では、令和8年のツアー化を目的とせず、インバウンド適性や安全管理等の課題整理を行い、令和9年度に向け磨き上げを検討した。



牡蠣養殖



大阪湾での漁獲高が年々減少する中、『漁以外で生計をたてることで魚の取り合いを減らしたい』という関係者の思いから2枚貝の養殖を始め、大阪湾で初めて牡蠣の養殖に成功。「ぼうでの牡蠣」として大阪産（もん）に認定されている。仕分け、牡蠣割りは体験としての価値も高い。



	すだて遊び（4月～9月：10～50名/1回）	牡蠣養殖（1月～3月：10名～20名/1回）
自然条件との関係性	遠浅の海と海の干満という自然条件を直接活用した体験	海域の環境と気候、水質が生育を支える養殖
観光体験としての位置づけ	アドベンチャーツーリズム	サステナブルツーリズム・フードツーリズム
インバウンドとの親和性	自然理解・参加型体験を重視する欧米志向とマッチする	環境と食の関係性を学べる高付加価値体験として有効
良好な環境の可視化	自然が無ければ成立しないコンテンツ	環境状態が品質として可視化される
当事業での検証意義	自然条件に依存する体験プログラムの成立の可能性	環境配慮型飲食コンテンツとしての可能性

【令和7年度の成果】

「すだて遊び」および「牡蠣養殖」について、観光利用上の留意点を整理するとともに、良好な環境が体験価値や品質に直結する構造を確認し、次年度以降の実証・実装判断に向けた検証対象として整理した。

インバウンド市場に向けた受入環境改善に必要な洗い出し

■ 目的・位置づけ

- ・本年度は、インバウンド誘客の本格実施を目的とするものではなく、良好な自然環境の保全を前提とした観光利用を実現するために必要な受入環境要件を整理・検証することを目的とする。
- ・拙速な整備を避け、次年度以降の段階的な実装につなげるための基盤づくりを行う。

項目

① 情報共有・理解促進

- ・環境の多言語情報
- ・行動配慮の明示
(立入制限、採取禁止)
- ・保全と活用の
ストーリー

② フィールド管理

- ・適正利用人数
- ・動線管理
- ・環境負担把握

③ 人的受入体制

- ・環境説明ガイド
- ・言語文化対応
- ・運用ルール

④ 移動・案内環境

- ・二次交通
- ・環境配慮動線
- ・現状整理

⑤ 効果測定・検証

- ・評価指標
- ・モニタリング



現状

日本語が中心

定量的な基準未整理

- ・個人スキルに依存
- ・組織的・持続的な受入体制が未整備
- ・専門人材不在

車での移動前提
国内観光前提
インバウンド視点での
検証不足

効果測定指標の設定およびモニタリング様式
の設計を実施中



■ 今後の対応

- ・インバウンド受入環境に関する課題の体系的整備⇒インバウンド対応上の課題を網羅的に整理
- ・拙速な整備を行わず、環境負担の増大につながるリスク要因を事前に把握
- ・1スポット1ガイドを育成し、少しずつ整備を行う
- ・モニターツアーを通して、環境保全と観光振興の両立を図るための持続可能な受入れモデルの基盤を構築
- ・これらの整理を踏まえ、アクセス・運営体制・費用等を含めた横断的な課題整理を実施

課題の洗い出しと改善方法の整理

インバウンド受入環境整理や各フィールドでの検証を踏まえ、観光モデル事業全体に共通する課題を横断的に整理した。

アクセス

- ❑ 関西国際空港から近接しているものの、観光導線として十分に認知・活用されていない。
- ❑ 市内の自然・食・体験コンテンツが点在しており、公共交通・徒歩を前提とした回遊が困難。

受入環境

- ❑ 海・里山・食など多様な体験コンテンツが存在する一方、情報が分散している。
- ❑ 予約方法・参加条件が団体ごとに異なり、来訪者にとってわかりにくい。

運営体制

- ❑ チームGASA・はんなん海の学校・自然と本の会・ほな山行こか・ハンナテ等地域団体は存在する一方で、観光全体を担う人材・統括的な運営体制が限定的。

費用・持続性

- ❑ 体験や取組の多くがボランティアな運営に依存。
- ❑ 観光としての収益生・コスト構造が未整理。

課題

- ❑ 主要駅（南海線・JR線）を起点としたモデル導線の整理。
- ❑ 複数コンテンツをつなぐ回遊ルートの検証。

- ❑ 体験コンテンツ情報の整理・可視化
- ❑ 少人数・分散型受入を前提とした環境整理

- ❑ 各団体の役割・強みの整理
- ❑ 将来的な民間主導運営（自走化）を見据えた体制検討。

- ❑ 体験コンテンツの有料化可能性の整理。
- ❑ ツアー造成を想定した費用構造の検証。

改善方法

- ❑ 本年度は、課題の洗い出しと構造整理を目的とし、観光コンテンツを短期間・低コストで実施可能な取組（地域資源活用ツアー、デジタル案内、体験型ツアー、地域イベント等）と、中長期的な時間・費用を要する取組（施設整備、大規模プロモーション、ツアー高度化、交通インフラ整備等）に整理した。前者はモデル事業として再現性が高く、後者は次年度以降に段階的に検討する。
- ※これらの整理を踏まえ、令和8年度以降は、短期間・低コスト施策の実装を起点とし、中長期施策へ段階的に展開する観光モデルの構築を目指す。

整理

山の現状把握と課題整理（ヒアリング・勉強会）

■森林関係者へのヒアリング調査

○実施概要

対象者：土地所有者・森林に関する活動団体など

実施時期：令和7年7月～8月

実施方法：対面によるヒアリング調査

ヒアリング内容

- ①山との関りについて（あなたの活動内容や状況について）
- ②森林整備について（森林区域）
- ③里山整備について（居住地の近接区域）
- ④人材育成について（林業者・環境インストラクター等）
- ⑤木材利用について（人工林の活用）
- ⑥普及啓発（木材の利用、レクリエーション利用）
- ⑦その他

【ヒアリングによりわかったこと】

●森林の管理状況・問題点など

- ・高齢化・後継者不足により、森林は管理されていない。
- ・木材市場の低迷・外材流入により、採算性が悪化。林業としての利用は困難。
- ・松くい虫で松林が壊滅。松茸も取れなくなった。
- ・人工林では、スギ・ヒノキが30～40年経過している。
- ・所有地・境界が不明確になっている。
- ・イノシシやアライグマの被害が増えている。
- ・管理が行き届かないと、不法投棄の懸念がある。
- ・山の知識、技術の継承がされない。

●今後の意向と可能性

- ・現状を維持する（管理しない・できない）意向が大半。
- ・活用してもらえるのであれば、市や第三者への貸与も可能。
- ・活用のアイデアとしては、観光資源としてレクリエーションに活用（ハイキング・キャンプ場・ツリーハウス等）。
- ・林道整備をすることによって意識が変化することを期待。
- ・相続や管理に関する研修を希望。
- ・ドローンによる山林状況の把握。

●地域特性と資源

- ・山と海が近接していることが特徴
- ・松林・松茸の文化・伝統がある
- ・明治期には軍用地・立ち入り禁止区域があった。
- ・神輿道・地域祭礼の歴史がある。

わんぱく王国・銀の峰ハイキングコース・桜の園・山中溪の桜まつりなどが資源



山中溪の人工林（田中氏所有）



紀泉高原キャンプ場跡（阪南市）

山の現状把握と活用に向けた勉強会の実施

良好な環境を活用した観光モデル事業
— 阪南市の里山を未来へつなぐために —

阪南市は、歴史跡にありながら、豊かな自然、里山を有しており、県下では唯一の準自然海岸の環境が広がっている。また、自然環境の保全、環境教育の推進等により注目されています。
本市は、自然環境が近い距離で保たれていることが特徴であり、従来の里山整備を推進するとともに、観光利用に合わせた活用を推進し、地域活性化に貢献することを目的として、自然環境と観光資源を結びつけ、観光資源としての活用を推進しています。
この事業は、自然環境と観光資源を結びつけ、観光資源としての活用を推進し、地域活性化に貢献することを目的として、自然環境と観光資源を結びつけ、観光資源としての活用を推進しています。

日時：令和7年11月13日（木）15時30分～17時
場所：阪南市商工会 会議室

プログラム

- 里山の現状について
- 里山の課題について
- 里山を活用した新たな取組について

講師
NPO法人自伐型林業推進協議会
事務局長 上垣 喜寛 氏

自伐型林業とは、森林の整備、管理、伐採、販売までを自分たちで行うことで、森林の持続可能な管理を実現し、地域活性化に貢献することです。また、伐採体験や木工体験などの活用相談や新たな活用アイデア等を出し合い共有することにより、地域活性化に貢献することです。

お問い合わせ
NPO法人自伐型林業推進協議会 秘書・山田・有馬
電話：06-4541-2715
メール：info@jibokurinomori.or.jp

日程：令和7年11月13日
場所：阪南市商工会館2階
参加者：近畿大学金ゼミ12名
山中溪自治会長1名・舞コーディネーター1名・自然と本の会2名
大阪府狩猟会阪南支部1名・自伐型林業推進協議会1名・ランドブレイン(株)2名・阪南市職員2名

【プログラム】

- ①阪南市の里山の現状について
- ②里山の課題について
- ③里山を活用した新たな取組

【講師】

NPO法人自伐型林業推進協議会
上垣喜寛氏

・左記のヒアリング内容をもとに当市の山の現状を参加者で共有。間伐体験や木工体験などの活用相談や新たな活用アイデア等を出し合い共有した。一方で、高齢化や担い手不足などの大きな課題も浮き彫りとなった。12月開催のワークショップで方向性を考えて行くこととなった。

山の資源活用の課題整理（継続的な観光資源としての可能性の検証）

事業名：銀の峰ハイキングイベント
日程：令和7年12月6日（土）
場所：銀の峰ハイキングコース（山中溪）
内容：ガイド付きハイキングイベント
参加者：一般参加者20名（定員20名）
ほな山行こか3名（ガイド役）
阪南市観光協会雪谷事務局長
ランドブレイン(株)山北氏

所要時間：約4～5時間

行程：最寄り駅に集合→ハイキング
→ハイキング後最寄り駅で解散

※昼食持参、ウエア・靴などレンタルは無し



JRふれあいハイキング2025秋
紀泉アルプス
銀の峰ハイキング
初心者でも大丈夫！自然林の中をゆっくり歩きます
天候条件が合えば、大阪湾が一望できます！
2025年12月6日(土)

- 集合・解散：JR阪和線「山中溪」駅改札付近9:30集合
- 行程：JR「山中溪」駅 9:30集合 → 登山口 → 第2パノラマ → 第1パノラマ（休憩・昼食）→ 登山口 → 山中溪駅14:00頃解散
- 服装・持ち物：トレッキングシューズ、歩きやすい服装、帽子、飲物、弁当他
- ガイド：チームマイドリーム山行
- 行程距離：約4km（高低差約230m）
- 参加費：500円
- 募集人員：先着20名 ※雨天中止（前日12/5の午後5時までには催行有無を電話連絡します）
- 申込締切：12/4（木）※定員になり次第終了
- 申込・問合せ：阪南市観光協会まで、電話・FAX・メールのいずれかで申込
①氏名 ②年齢 ③住所 ④連絡がとれる電話番号
電話：072-447-5547・5847（平日9:00～17:00）
FAX：072-447-5847
Eメール：hannan_kankou@hannan-tb.jp
12/6当日の連絡先：080-6293-8785



一般社団法人阪南市観光協会
〒599-0201 大阪府阪南市尾崎町35-4
阪南市商工会館2階
電話 072-447-5547 FAX 072-447-5847
Eメール：hannan_kanko@hannan-tb.jp



【成果・評価】

- ・自然環境を活用した体験型イベントとして高い満足度が得られた
- ・熟練ガイド動向ではあったが、解説というより、参加者の安全性を重視していた
- ・無理のない程度のコースであることから小学生から大人まで幅広い年代が参加可能であることを確認でき、次回も参加したいとの声が多く聞かれた。

【課題・今後の継続可能性について】

- ・本イベントは、自然環境を活用した体験型コンテンツとして一定の集客効果が確認できた一方、ハイキング単体での収益確保には限界があることが明らかとなった。今後は、参加費設定の工夫や地域事業者との連携による付加価値創出、継続開催や高付加価値化を通じて、収益性の向上を図る必要がある。

★収益の一部を環境保全還元するためのアイデア

【インバウンド・高付加価値化】

- ・英語ガイド（QRコード・アプリ）
- ・環境保全体験付き
- ・企業研修（SDGs・チームビルディング）
- ・少人数貸し切りツアー
- ・食事・ハイキング用品貸し出し
- ・学校・団体向け自然学習

山の現状把握と課題整理 (ワークショップ)

日程：令和7年12月11日（木）

場所：阪南市商工会館 2階

参加者：近畿大学金ゼミ生12名・山中溪自治会長1名

阪南市職員4名・自然と本の会1名・ほなやまいこか2名

アコーディス(株)6名・末松さん1名・ランドブレイン(株)2名

プログラム：①里山を有効に活用するためのアイデア

②観光コンテンツとしての提案

③実現に向けた課題整理

【出されたアイデア】

●インバウンド向け

- ・古民家再開発
- ・民泊業者誘致
- ・古民家カフェ
- ・写真スポット
- ・関空でのPR
- ・関空からバス
- ・車中泊スポット
- ・パン屋誘致
- ・わんぱく王国再生
- ・ピクニックセット販売
- ・ライトアップ
- ・ジップライン
- ・グランピング

【観光コンテンツとしての提案】

- ・温泉地復活
- ・手ぶらハイキング
- ・間伐体験

【実現に向けた課題整理】

- ・トレイルセンター
- ・駐車場整備
- ・飲食店
- ・知名度向上



●体験型

- ・米作り
- ・田舎暮らし体験
- ・ハイキング
- ・サイクリング
- ・サバイバルゲーム
- レジャー系
- ・グランピング施設誘致
- ・キャンプ場
- ・阪南の木でおもちゃ製作
- ・市民牧場

●その他

- ・インフルエンサーコラボ
- ・Youtuberコラボ

山においては、人的体制や安全管理等の成立条件が十分に整っていないことから、令和8年度はツアー実施には踏み込まず、将来的な活用を見据えた条件整理や人材育成を優先する。

良好な環境を活用した観光モデル事業
 ー 阪南市の里山を未来へつなぐために ー

阪南市は、都市部でありながら、豊かな泉涌・里山を有しており、府下では唯一の半自然海岸の連続が広がる瀬戸内海の海沿い、暖気帯の自然生ずりに設定されています。
 本市は、森田川が流れる地域で、かつては水が豊富で、豊富な山泉水が湧き出るとともに、森田川を水源とする水が、泉涌川をはじめとした河川を通じて海に流れ込み、森田川が一本となった自然生態系を形成しています。
 この豊かな自然生態系を維持・創出していくためには、森田川沿いのネットワークを強化し、地域に関わる主体の連携を強化、広域全体での連携を強化する必要があります。
 生活様式が変化し、里山を活用することが少なくなった現状において、阪南市の里山を未来につなぐために、良好な環境を活用した事業を創出することを目的とした勉強会を開催いたします。

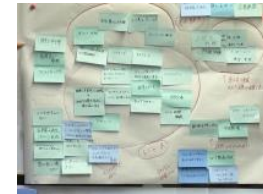
日時：令和7年12月11日(木)15時30分～17時
 場所：阪南市商工会 2階 会議室

プログラム

- ① 阪南市の里山の現状について(ふりかえり)
- ② ワークショップ
 ・里山を有効に活用するためのアイデア
 ・観光コンテンツとしての提案
 ・実現に向けた課題整理
- ③ とりまとめ

※ワークショップには近畿大学の学生にも参加いただきました。

お問い合わせ先
 ランドブレイン株式会社 担当：山北・吉岡
 電話：06-6541-2755
 E-mail: yamaki@landbrains.co.jp



■山の資源を観光に活用するための課題整理

①人材・体制不足

- ・ガイド不足、安全管理未整備

②商品化未成熟

- ・既存ハイキングの付加価値不足
- ・海から山を繋ぐストーリー未共有

③推進体制未整理

- ・役割分担、広域連携不足

■活用の方向性

①条件整備の優先

- ・人材育成/安全ルール整備
- ・既存資源の質向上と検証

②地区別モデル検討

- ・山中溪：体験型コンテンツ（ハイキング・木工体験）
- ・桜の園：滞在型コンテンツ（自然を満喫できるキャンプ）

阪南市内ツアー化候補 2 選

市内観光資源のスコアリングによる候補選定

プロジェクトメンバー
 【阪南市】
 まちの活力創造課
 【観光協会】
 雪谷
 【その他】
 岩井克巳 (株漁師鮮度)
 成子善一 (浪花酒造(有))



阪南市内ツアーコンテンツ

プラン①

豊かな自然が育む阪南の海で食と体感！
 ~関西初の『すだて遊び』体験~

プラン②

歴史に触れ、手で仕込み、舌で確かめる。
 ~浪花酒造、自然が育んだ三世紀の一杯~



行程表

- 11:00 集合
- 11:30~13:00 栄進丸名倉にて海の幸を堪能
- 13:00~14:30 『すだて遊び』体験
- 14:30~15:00 取れた魚の観望
- 15:00~15:30 海と森がつなぐ小さな畜産講座
- 16:00 解散



行程表

- 13:00 集合
- 13:00~13:15 酒造りのビデオ鑑賞と歴史案内
- 13:15~13:30 酒蔵見学(酒と山のつながり紹介)
- 13:30~14:30 新酒の試飲と酒造り体験
- 14:30~15:00 産物所での買い物
- 移動 本宅産数にて酒造りのビデオ鑑賞と歴史に関する説明
- 15:15~16:00 匠のippinにて阪南市の特産品の買い物
- 16:00 解散



阪南市観光スポットBEST20

名称	ジャンル	点数	アクセス	人気	満足度	近隣飲食	運営体制	内容
1 かき小屋	グルメ・体験	19	4	5	5	5	○	西島取漁港にて12月中旬から2月下旬頃オープンの阪南市を代表するグルメ
2 すだて遊び	グルメ・体験	19	4	5	5	5	○	西島取漁港にて6月~9月頃実施。新しいマリナクティビティとして注目
3 浪花酒造	グルメ・体験	18	5	4	4	5	○	創業300年以上の老舗酒造で、地元の酒造りを見学できます。試飲や購入も可能です。
4 月化粧ファクトリー	グルメ・体験	16	3	4	4	5	○	無料の工場見学と本格的なお菓子作り体験ができる施設です。
5 やぐら祭り	伝統文化	16	5	3	3	5	—	市内で開催される当市の秋祭り。波太神社の石階段をやぐらが豪快に駆け上がる。
6 匠のippin	グルメ・体験	16	5	3	3	5	○	阪南市の特産物等が集まる買い物スポット
7 いちご狩りの橘農園	グルメ・体験	13	2	4	3	4	○	季節限定でいちご狩りが楽しめる農園で、新鮮ないちごを味わえます。
8 わんぱく王国	公園	12	4	4	3	1	○	山中溪にある自然豊かな公園で、全長200mのローラー滑り台や恐竜型の遊具が人気です。
9 苔っここ	体験	12	4	2	2	4	—	苔玉は水割げが良く、根腐れしにくいのが特徴。扱いも簡単で人気のワークショップです。
10 山中溪 (やまなかだに)	自然資源	11	5	2	2	2	—	山中溪にある自然豊かな公園で、石畳の街並みや桜の名所として知られています。
11 銀の峰ハイキングコース	自然資源	11	3	3	3	2	—	初心者向けのハイキングコースで、自然と触れ合いながら歩けます。
12 せんなん里海公園	公園	10	2	3	4	1	—	人工磯浜が広がる公園で、磯遊びや散策が楽しめます。
13 阪南スカイタワー展望緑地	自然資源	10	2	3	3	2	—	絶景パノラマが楽しめます。
14 びちりビーチ (備付海水浴場)	アクティビティ	9	2	3	3	1	○	『日本の夕陽百選』にも選ばれた美しいビーチで、夕日を楽しめながらの散歩や、海水浴が楽しめます。
15 新山 (まちなかいしや) ハイキングコース	自然資源	9	1	3	3	2	—	自然豊かなハイキングコースで、四季折々の風景が楽しめます。
16 清水太郎	文化	8	3	1	1	3	—	『海岸のすぐ近くの清水が湧き出る』不思議な湧き水があるスポット
17 地福寺	神社・仏閣	8	3	1	2	2	—	近郊では安産信仰で知られています。境内を覆いつくすしだれ桜は見事
18 桜の園	公園	8	1	3	3	1	—	園内にはテントサイトもあり、年中キャンプ可能。春は桜が満開となる。
19 玉田山古墳群	史跡・城跡	6	1	1	1	3	—	古墳時代の遺跡が点在するエリアで、歴史散策に最適です。
20 波太神社 (はたじんじや)	神社・仏閣	6	1	1	1	3	—	平安時代の『延喜式』に記載された式内社で、国の重要文化財に指定されています。

阪南市グルメスポットBEST20

名称	ジャンル	点数	ランチ	人気	満足度	雰囲気	内容
1 漁師の家めし 泉川波有手 英進丸 漁家	海鮮	14	1	5	5	3	漁師直伝の家庭料理・海鮮料理が楽しめます。
2 新生寿司	寿司割烹	13	1	4	3	5	ランチのコスパは最高!
3 波有手の牡蠣小屋	海鮮	13	5	4	4	4	獲れたての牡蠣がお腹いっぱい食べれて、毎年大繁盛
4 中華料理清華園	中華	13	1	5	4	3	阪南市で愛され30年以上の町中華
5 中華そばせんよし	ラーメン	13	1	5	4	3	和歌山県の人気店『井出商店』の味を継ぐ人気店
6 青木松風庵 月化粧ファクトリー	お菓子・スイーツ	13	1	5	4	3	月化粧の製造過程を見学できる人気の工場見学スポットです。
7 やまよし	寿司割烹	12	1	3	3	5	新鮮な魚介を使った料理が評判の店です。
8 鮎でん	寿司	12	1	4	3	4	アットホームで雰囲気○ランチのコスパ最高!
9 野菜巻き串バル ぼっぽ	串・バル	12	5	4	3	3	地元野菜を使った串焼きバルです。
10 中華料理やぐら	中華	12	1	4	4	3	上品な料理が多い女性に人気の町中華
11 中華料理 味楽	中華	12	1	4	4	3	本格的中華で人気
12 ラーメン石松	ラーメン	12	1	4	4	3	呑んだ後には必ず食べたくなる慣れ親しんだ味
13 らーめん生島家	ラーメン	12	1	4	4	3	豚骨醤油ベースの人気店
14 らーめん吉兆夢	ラーメン	12	1	4	4	3	極上のとんこつラーメン。炙りチャーシューも絶品
15 寿司 割烹 みやもと	寿司割烹	11	1	3	3	4	新鮮な魚介と極上寿司が堪能できるお店です。記念日や大切な日にもおすすめ!
16 大規寿司	寿司割烹	11	1	3	3	4	新鮮な魚介と極上寿司が堪能できるお店です。
17 中華工房五色園	中華	11	1	4	3	3	地元で人気の町中華
18 鴻福園	中華	11	1	4	3	3	本格的な台湾料理を提供
19 四川料理 蘭梅	中華	11	1	4	3	3	食飲をそそる幸さの四川料理を提供
20 果樹まる	お菓子・スイーツ	11	4	4	4	3	果物をまるごと使ったパフェやクレープが人気

コンテンツの磨き上げ



創業享保年間 八代將軍吉宗公の頃
 令和七年 浪花酒造「清酒浪花正宗」
新酒お披露目会

【日時】 令和7年11月29日(土) ※完全入替制・当日参加不可
 第1部 10:00~11:45 <専業人員>見学プラン30名+特別プラン10名
 第2部 12:30~14:15 <専業人員>見学プラン30名+特別プラン10名
 第3部 15:00~16:45 <専業人員>見学プラン30名+特別プラン10名

【場所】 浪花酒造(阪南市尾崎町3-13-6) 南海本線「尾崎」駅より徒歩5分

【参加費用】 ※参加資格:20歳以上の方
 見学プラン:3,000円(本宅・酒蔵見学+浪花正宗特製5勺餅+お土産券500円分+300ml日本酒)
 特別プラン:8,000円(見学プラン+本宅庭園鑑賞しながら新酒飲み比べ+阪南買いもんおつまみ+福袋)
 ※阪南の恵み(なにわ風牛・波有手カキなど)を使った買いもんコーナー設置(別途実費)
 出店予定:漁師刺度、野菜串焼きバルばっば、浜のおばちゃん家、新興製菓など

【スケジュール】 受付⇒登録文化財見学<本宅(和室・庭・洋室・茶室)・酒蔵1F>⇒新酒鑑別り
 ⇒自由時間(振る舞い酒、阪南買いもん、売店、にてお楽しみください)

【募集開始】 令和7年9月22日(月) 9時より受付を開始します。 ※応募多数の場合は先着順

【お問合せ・申込】
 (一社)阪南市観光協会: 電話: 072-447-5547 (平日9:00~17:00)
 FAX: 072-447-5847
 メール: hannan.kanko@hannan-tb.jp
 ①参加希望時間 ②プランの種別 ③氏名 ④年齢 ⑤電話番号 ⑥住所



コンテンツの磨き上げを目的に、浪花酒造において開催された新酒お披露目会に参加し、酒造りと良好な環境との関係性を検証した。当日は、山のミネラルを豊富に含んだ伏流水が酒造りを支えていること、山の土壌に蓄えられたミネラルを含む井戸水が、300年以上枯れることなく利用されてきた歴史について説明が行われた。これにより、健全な山の保水力と水質が日本酒の味わいという形で可視化されていることを確認できた。本取組は、森里川海のつながりを「酒」という身近な観光資源を通じて伝える有効なモデルであると評価できる。

本検証を通じて、「良好な環境がなければ酒の品質は成立しない」という明確なストーリーが構築可能であることが明らかとなった。今後は、このストーリーを核として、来訪者が森・水・酒の関係性を理解できる解説手法や導線を整理し、他事業者への横展開も視野に入れたコンテンツとして整理を進めていきたいと感じた。なお、当日は休日開催であったため酒造り工程を伴う体験は実施できなかったが、酒蔵内で実現可能な体験要素の方向性について後日、社長と整理を行った。具体的には、仕込み水の試飲、酒樽を櫂棒で混ぜる「櫂入れ」を通して発酵の仕組みに関する簡易解説と試飲を組み合わせた五感型体験等について、実施条件や安全面、運営体制を含めた検証を行うことを想定している。

これらは大規模な設備投資を伴わず実施可能であり、モデル事業としての再現性が高いと考えられる。さらに、浪花酒造単体で完結する取組にとどまらず、将来的には上流の里山環境や地域資源と連携し、「一杯の酒が森里川海の循環の中で生まれる過程」を段階的に体感できるコンテンツ展開の可能性についても整理していく。

あわせて、本取組で整理したストーリーや説明要素については、今後のガイド育成を見据えた基礎資料として体系化を進める。これにより、説明内容の質を担保しつつ、地域内での担い手拡大や持続的な観光受入体制の構築につなげていく。



取組内容詳細：海外ランドオペレーター対象モニターツアー

□ 実施日

2026年1月29日（木） 11：00～16：30

モニターツアーの様子 （写真）

□ 実施内容

- 11：00 最寄り駅に到着し、徒歩で移動（5分）
①波有手の牡蠣小屋（環境セミナー）
- 13：20 移動
- 13：30 ②浪花酒造（本宅&酒蔵見学、売店視察）
- 14：30 移動
- 14：40 ③匠のippin（視察・意見交換）



①牡蠣小屋……かつて「波有手（ぼうで）浜」と呼ばれていた一帯で、シラスやタコ、サワラなど、季節ごとにさまざまな海の幸が採れる。ノリやワカメ、牡蠣などの養殖も盛んで、海産物は磯の香りが濃く、食感も格別である。



②浪花酒造……大阪泉州の地で1716年創業（江戸・享保年間）大阪府下最古の地酒蔵です。本宅見学の際に、山のミネラルを豊富に含んだ水と酒との繋がりについてのセミナー実施。その後、酒造りの現場を視察。



③匠のippin……豊かな自然に育まれた食材、伝統的な技で生み出された阪南を代表する食の技術という、阪南の魅力をブランド化し立ち上げた、阪南ブランド十四匠「美食ブランドKUU（食う）」を知っていただくための産直市場で、地元物産品の販売・PRに加え、観光の支援も行っている。

①②ともに、観光資源としての訴求力、継続性に問題はないが、担い手を増やすことでより安定した提供が可能となる。

モニターツアーアンケート結果

□ モニターツアーガイド

(株) 漁師鮮度 岩井克巳氏 浪花酒造 (有) 成子和弘氏 阪南市観光協会 雪谷充宏

□ モニターツアー参加者

海外ランドオペレーター4名 20代女性 (欧米MRT担当)、30代男性 (自治体営業: インバウンド誘致)、40代男性 (東南アジア)、50代男性 (欧米MRT)
自治体2名

□ 結果

モニター全体満足度: 100% (〔不満〕 1:0名、2:0名、3:0名、4:0名、5:4名 〔満足〕)

● 良い点・悪い点など (気づき)

- ・「自然」と「伝統 (手仕事文化)」のバランスが取れている点が魅力。
- ・浪花酒造はコンテンツの質が非常に高いため、欧米豪向けプロモーションでは特に強調したい。
- ・海のアクティビティは他エリアとの差別化が難しい可能性がある。
- ・欧米豪向けには、歴史的背景を含むストーリー性 (コンテンツ) があると良い。
- ・浪花酒造の施設を活用したイベントや、小グループ向けのアレンジがあると良い。
- ・牡蠣コンテンツは良いが、SDGsとどのように結びつけ、さらに「お酒」とどう連動させるかが課題。
- ・祭りや桜など、強いイベントに組み合わせた誘客も魅力があるのでは。
- ・宿泊施設や大阪市内の他観光地 (近郊周遊ルート) とセットにした商品開発を検討したい。

● あれば良いと思う体験

- ・通年で体験できるプランが欲しい。
- ・英語表記があると、より良い。
- ・浪花酒造での「お茶」体験があると良い。

今後の課題

- 歴史的背景やストーリーの説明の更なる充実
- インバウンド対応の強化 (英語表記、受入環境・設備の充実)
- 他コンテンツと融合した「阪南市ならではのツアー」の磨き上げ

取組内容詳細：外国人留学生対象モニターツアー

□ 実施日

2026年2月9日（月） 11:00～16:30

□ 実施内容

2026年1月29日（木）の内容と同じ

□ モニターツアーガイド

名倉水産 名倉勲氏
浪花酒造(有) 成子和弘氏

□ モニターツアー参加者

外国人留学生 7名
フランス 2名 韓国 1名
ベトナム 1名 中国 1名 ミャンマー 2名
日本人学生 1名、自治体 3名

□ 結果

モニター全体の評価：**4.88**

〔不満〕 1:0名、2:0名、3:0名、4:1名、5:7名〔満足〕

● 良い点・悪い点など（気づき）

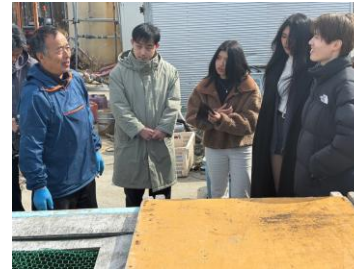
- ・ 地元の人がすごくフレンドリーに対応してくれた。
- ・ 母国では食べたことが無いものを味わえた。
- ・ 体験を通して自然の良さを感じる事が出来た。
- ・ 日本酒の製造工程を見学出来るのは価値が高い。
- ・ 海が近いせいか少し魚臭かった
- ・ 阪南市にこんな場所があるのを知らなかったのもっと発信をする方が良いと思う。
- ・ 大きな荷物があると移動に車がいる。

● あれば良いと思う体験

- ・ 食べるだけでなく、漁師体験も出来ると良い。

モニターツアーの様子 (写真)

① 波有手の牡蠣小屋



② 本宅&酒造見学、売店視察



Hannan Retreat

—環境と地域の想いに寄りそう旅—

1. コンセプトキーワード

- ・環境と地域の想いに寄りそう旅
自然環境・地域文化・地域社会への負荷をおさえつつ、その土地の暮らしや取り組みに対して、理解、共感、参加する旅
- ・森里川海の循環
山に降った一滴が、伏流水となり、酒蔵の文化を育て、川を下って海のいのちへとつながる
- ・自然を未来へ受け渡していく視点
自然や資源を「その場で消費する対象」するのではなく、敬意を払い、次の世代に受け渡していく共有の財産として捉えていく視点
- ・住民と訪れる人が共に学び合う
海洋教育や里山保全など地域の取り組みに参加することで、訪れる人は森里川海の価値を学び、住民もまた地域の資源の素晴らしさを再認識していく



2. 映像制作の背景と狙い

【目的】
阪南市の豊かな自然環境と、森里川海のつながり、そして環境への取り組みを映像で国内外に発信する。環境や地域の取り組みを尊重する旅のスタイルを提示し、「環境と観光の好循環を育てる地」としての阪南市の認知を高める。阪南市を訪れる旅行者・交流人口を拡大し、地域経済やコミュニティへの波及につなげる。

【背景】
大阪都市圏、関西国際空港から至近の立地でありながら、森里川海の自然を体験できる阪南市。他の地域を圧倒する特別な観光名所や資源はなくても、海洋の保全活動や海洋教育、里山の保全など、地域ぐるみの環境と向き合う取り組みが積極的に行われてきました。一方、世界的な潮流として、旅行者の旅の目的は単なる「消費」から「理解・共感・参加」へと変わりつつあります。特に欧米では、環境負荷を抑えた旅を実践しながら、地域の取り組みや暮らし方を尊重する考え方が広がっています。本映像では、阪南市の森里川海のつながりと、そのような自然環境、人々の想い、地域の未来への取り組みに寄りそいながら旅をする旅行者の姿を描きます。阪南市の取り組みは、まさに現代の旅の価値観と呼応するものです。自然を「ただ見に行く」のではなく、地域の取り組みを学び、その一端に参加する。そのような旅のスタイルを提示することで、「環境と観光の好循環を育てる阪南市」を国内外に発信していきます。

3. 構成イメージ

【導入】
旅のスタイルを提示

【中盤1】
森里川海を体験

【中盤2】
地域と一緒に学ぶ環境保全

【終盤】
未来へつながる旅

※令和7年度は冬の素材を集め、令和8年度に予定する夏の素材と併せ動画を作成

株式会社kana | 木佐美 有 (kisami yu)

【プロフィール】
国際政策研究を背景に、政府・NGO、メディア、広告制作の経験を持つ。社会課題をテーマに、映像・コピー・デザインを通じた企業・地域の変革支援を行う。以前、阪南市の持つ環境の魅力に焦点を当てた動画制作の実績を持つ。



阪南市インバウンドSNS発信方針

■ 目的

※本年度は発信手法の整理および効果検証を主目的とする。

阪南市の観光地化されていない良好な自然環境の価値を、適切なターゲット層へ発信し、環境価値への共感形成と質重視の誘客可能性を検証する。

■ ターゲット

欧州・英語圏の自然志向・滞在型旅行層

【特性】

- ・大量消費型観光を志向しない
- ・地域固有の自然・文化への関心が高い
- ・動画SNSを通じ旅行先を探索

⇒阪南市の環境特性との親和性が高い層

■ 発信コンセプト

The Gateway to Authentic Japan

- ・関西国際空港至近の立地
- ・観光地化されていない海・里山
- ・地域住民の営みと結びつく自然

共通価値：静謐性・余白・自然との共生

■ コンテンツの整理

Nature（海岸景観・夕景）

Culture（自然と結びつく祭礼・信仰）

Food（地場水産資源・季節性）

Story（生業と環境の関係性）

※「消費対象」ではなく「守られる環境」として表現

■ 運用方針

- ・TikTok/Instagram活用
- ・約10秒の短尺動画
- ・波・風・鳥等の環境音を活用
- ・過度な演出や煽り表現を排除
- ・週1回投稿/2名体制で確認

■ 検証指標（KPI）

最重要指標：保存数

= 将来的来訪意向を示す指標



近畿大学との活動報告①

【里山関係者との意見交換および有機農業体験】

実施日：令和7年10月10日（金）

場所：ラーニングフィールド大阪

■参加者

- ・近畿大学経営学部 金相俊教授
- ・国立昌原大学 アリババキム教授
- ・近畿大学 金ゼミ生5名
- ・千代幸和氏



■活動概要

- ・牡蠣殻粉末（西鳥取牡蠣小屋）を用いた土壌改良
- ・にんにく植え付け体験を通じた農業体験学習
- ・良好な環境を活用した観光コンテンツ造成と新たな特産品開発による観光振興に向けた意見交換

■今後の可能性と方向性

- ・農業体験型のコンテンツ企画（古民家滞在型含む）
- ・山中溪の歴史的まちなみ散策（案内人付き）

■気付き

- ・山から流れ出るミネラルを多く含んだ湧水で作物を育てることで良い影響がある。ストーリーとしても魅力的。インバウンド向け体験型コンテンツとしても価値観が高いが、日帰りではなく宿泊型での提供がより現実的では。



【獣害防止対策の取組】

実施日：令和7年10月29日（水）

場所：ラーニングフィールド大阪

実施内容

■参加者

- ・近畿大学 金ゼミ生1名
- ・阪南市観光協会 雪谷
- ・阪南市職員2名
- ・千代幸和氏

■活動概要

- ・イノシシ等の獣害対策用金網の設置

■今後の可能性

- ・農業体験だけでなくジビエも提供できればより魅力的になる。



近畿大学との活動報告②

【地元自治会と山のブランディングについて】

実施日：令和7年12月18日（木）

場所：ラーニングフィールド大阪

■参加者

- ・近畿大学経営学部 金相俊教授
- ・近畿大学 金ゼミ生 1名
- ・山中溪自治会岡住会長

■活動内容

- ・山中溪のブランディングについて
『アート村』として桜をモチーフにしたブランディング
- ・桜まつり（3/29）にさまざまな企画案
 - ①「山中溪アートさんぽ（仮称）」の実施
 - ②「みんなで作る桜の木」を廃校で企画
 - ③丸い「桜ボールオブジェ」を旧紀州街道の石畳に設置
- ・にんにくの生育状況チェック

■今後の可能性と方向性

- ・山中溪の美しい景観はインバウンドからも高い評価が得られるのではないか。
- ・各種イベントについてSNS発信を強化
- ・インバウンドの利用度が高いSNSへの発信の検討

【浪花酒造をコンテンツとする旅行企画の事前調査】

実施日：令和7年11月29日（金）

場所：浪花酒造

■参加者

- ・近畿大学経営学部 金相俊教授
- ・南海大学教授 金石永
- ・近畿大学 金ゼミ生 1名
- ・大阪公立大学学生 5名（うち留学生3名）
- ・海外ランドオペレーター 3名

（TJC日本旅行：鄭春本部長、王子玉営業部長、周聖欣）

■活動内容

- ・新酒お披露目会での「鏡割り」イベント、古酒と新酒の飲み比べ、良好な環境とのつながりを伝える説明や日本酒と阪南旨いもんとのマリアージュなど日本酒文化が外国人に受け入れられるか検証

■今後の可能性と方向性

- ・酒はインバウンドからも「sake」として高い人気があり、浪花酒造のような歴史のあるものはインパクトがあり、さらに良好な環境とマッチングさせることは他にはない価値となる。

森里川海の活用を支えるインストラクター育成の現状

【現状①】

海のインストラクター育成（実践事例）

■ はんなん海の学校

主体：阪南市

事務局：NPO法人大阪湾沿岸域環境創造研究センター

目的：総合的な海の学びの提供

将来的な環境保全の実務者育成

対象：阪南市外を含む小学生～大人

（主な育成内容）

講義：海と人、仕事、地域社会との関係

実技：海洋生物観察、調査手法

講習：海の安全管理、活動計画立案

実践：学びを活かしたイベント運営・実習

（対外発信）

2025年5月 大阪・関西万博会場にてシンポジウム開催

国内外来場者へ活動紹介

海洋環境保全の重要性を発信

海分野では、育成～実践～発信まで一連のモデルが形成



はんなん海の学校シンポジウム「未来の海を共に創る」

※これは当市の取組であり、本事業の取組ではない。

【現状②】

森・里・川でインストラクターの仕組み

■ 現状整理

- ・森里川分野では、体系的なインストラクター育成の仕組みが未構築
- ・市内には森林保全・里山管理・河川清掃・ハイキングに取り組む市民団体・任意団体・個人が点在。
- ・各活動は目的や専門性、対象（市民向け/観光向け）が整理されていない。

【課題】

- ・人材の可視化不足
 - ・誰が、どの分野で、どんな対応ができるか未把握。
- ・育成、継承の仕組み不足
 - ・経験やノウハウが属人的で、次世代に繋がっていない

【次年度以降の人材育成の方向性】

- ・新規人材の大量育成は現実的に難しいことから、既存の市民活動人材を中心としたスキルアップを基本とする。優先する取組としては市民団体・活動者と意見交換を行い、役割整理を行うとともに、将来的なインストラクター候補を発掘・育成を行う。これらの取組を通じて、次年度以降の段階的な活用や人材の連携に繋げていく。

本事業を通して実現する「保全と活用の好循環」の仕組み

保全の具体的内容・方法

- 自然共生サイト『阪南セブンの海の森』の環境調査とアマモ場の保全・再生活動
- 森林の適切な整備（間伐・遊歩道整備等）により森林の多面的機能を最大限発揮する
- 里山整備・里地景観の維持
- 男里川河口部の自然干潟維持に向けた河川敷・水辺の清掃

活用の具体的内容・方法

- インバウンドから関心の高い体験型コンテンツの販売すだて遊び・潮干狩り・牡蠣を堪能する海のプログラムを本事業を通して「海の恵みを体験し、学ぶエコツーリズム」へ磨き上げる
- 清冽な伏流水で仕込む地酒の体験プログラム
地域資源としての「水・環境・酒造り」を一体的に捉え酒蔵見学を「良好な環境の持続で地域文化を支える」プログラムとして実施。

活用から保全への還元方法

- 海では、事業者がこれまで実施してきた「すだて遊び体験」や「牡蠣小屋」に加え、アマモ場の観察や山から海へ続く栄養循環を学ぶ環境体験を組み込んだツアーを実施し、収益の一部をアマモ場の保全・再生や里山保全に還元する体制を整える。これにより、事業者自身の環境意識の向上とともに、地域環境を守る具体的な行動につながる。酒蔵コンテンツでは、酒造りに不可欠な伏流水が山の健全な環境によって支えられていることを改めて実感し、水源地保全への取組強化へと意識が高まる。海と山の事業者がそれぞれ「環境発信の担い手」となることで、観光と保全が一体となった地域モデルが形成され、他の事業者への波及効果も期待できる。旅行者に対しても、自然体験を通じたSNS発信や、海岸清掃・環境整備など、観光行動が直接環境維持に寄与するコンテンツ造成も検討していく。さらに、新たな海のアクティビティや農村体験など、体験と保全を結び付けたコンテンツを創出し、より選択肢を広げることで、多様な主体が参加する循環型モデルの構築を目指す。
- 阪南市の自然や環境に魅力を感じた人が、リピーターとして訪れ、地域と関わりを深めていく。そんな“阪南ファン”を増やすことで、持続的な関係人口の広がりを目指す。

【R8年度取組】

共通ストーリーの整理・言語化

- 海と山の自然特性、酒造等の地域産業が培ってきた環境背景を踏まえた「阪南の良好な環境」に関するストーリーを整理し、ツアーやガイドの共通基盤とする

海を主軸としたモニターツアーの実施・検証

- 小規模・実験型ツアーの実施
- 移動導線、所要時間、理解度、満足度の検証
- R9年度の実施に向けたコンテンツの販売戦略の検討

山に関する成立条件の整理・検証

- スポットガイドの育成
- 地域団体との連携可否
- 安全管理・フィールド条件
⇒観光利用に移行するための課題を明確化

評価指標の設定と見える化

- 来訪者アンケート等により評価指標を設定。具体的には、満足度、再訪意識に加え、海・山・地域産業の関係性を踏まえた「阪南らしさ（良好な環境）」の理解度を指標とし、結果を可視化してツアー内容やガイド説明の改善、次年度以降の事業検証に活用する。

想定する成果

- 自然特性や酒造等の地域産業が培ってきた環境背景を整理・言語化し、ツアーやガイドにおける共通の説明基盤を構築。
- 共通ストーリーをガイド育成やコンテンツ造成に活用し、説明品質の平準化や担い手拡大、事業者間連携が進む。

想定する成果

- 小規模・実験型のモニターツアーを実施し、移動導線、所要時間、理解度、満足度等を検証することで、実施上の課題や改善点を具体化する。
- 検証結果をもとに、ターゲット設定、価格帯、提供形態等を整理し、次年度の本格実施およびコンテンツ販売に向けた戦略検討の基盤を整備する。

想定する成果

- 山の観光利用に向け、人的体制・連携・安全面等の成立条件を整理・検証し、次年度以降に試行するコンテンツを創出する。

想定する成果

- 観光体験の効果を数値・傾向として把握でき、改善点が明確化される
- 「良好な環境」がどの程度来訪者に伝わっているかを検証可能となる
- 令和9年度以降の事業継続・展開に向けた判断材料が整理される

R8年度のゴール

- 共通ストーリーの整理と海・山の検証を通じて、阪南の良好な環境を活かした観光モデルの骨格を確立し、令和9年度以降に民間主体で自走化できる体制を構築する。

想定される課題

- 担い手不足や安全管理等の受入条件整理、ストーリーと体験内容の整合、検証結果を事業化に結び付ける仕組みづくりが課題となる。